

6-1 中部地方北西部（飛騨地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の地震活動 1989年1月～6月

Seismic Activity in the Northwestern Chubu Region (including the Northern Hida, Toyama Bay and Noto Peninsula Regions), January – June, 1989

京都大学防災研究所

上宝地殻変動観測所

Kamitakara Crustal Movement Observatory
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

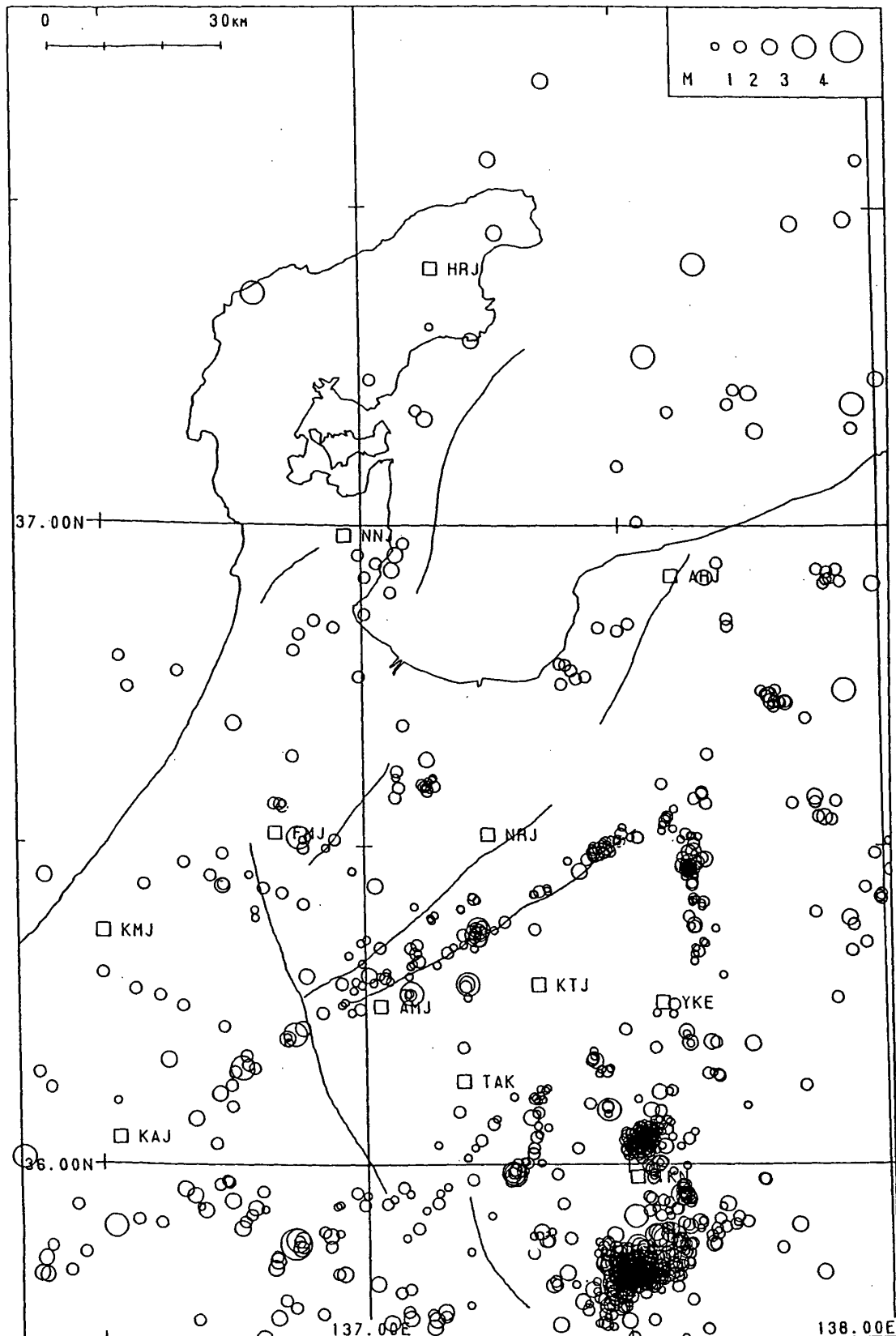
前報¹⁾に引続き，1989年1月より6月までのこの地域の地震活動状況を報告する。この期間中の主な地震活動は次の通りである。

(1)は1月3日跡津川断層のやや南側に起ったM3.1の地震，(2)は同断層中央部に1月9日に起ったM3.2および5月23日のM3.2の地震で，この場所では過去数年間比較的活動度が高い。(3)は岐阜県久々野附近に1月17日15:33及び15:39に連続して発生した。(4)の乗鞍岳南西地域では引続いて活動が継続中であり，2月21日M3.6，3月4日M3.0の地震が起った。(5)の御岳山周辺では3月1日M3.4の地震が発生，6月20日には，このすぐ北西方でもM3.0の地震(13)が起っている。この南方の長野県西部地震の余震域では，なお比較的活動な余震活動が継続しており，上記期間中 $M \geq 3.0$ の地震も15個観測された。このうち最大のものは6月30日のM4.0の地震である。(6)は跡津川断層西端天生のやや東南方に起ったM3.0の地震であり，この附近では，その西方の御母衣断層西側でM3.1(8)，さらに西側の白山直下でもM3.9の地震(12)が起った。(14)飛騨地方南部の白鳥町附近では6月25日M4.0，同28日M3.5の地震が続いて発生した。能登半島北部の輪島西方では4月22日M3.6の地震(7)，富山湾内では5月21日M3.1(10)，同月23日にはM3.9の比較的大きい地震活動があった。

以上のうち，飛騨地方中部に発生した(3)および(4)の地震と，同西部に起った(12)および(14)の地震のメカニズムを第2図に示す。前3個のメカニズムは従来からこの地域に発生している地震の場合と同様の横ずれ断層型，(14)は横ずれ成分を含む逆断層型であるが，これらのメカニズムから推定される主圧力方向は何れもE-WないしNW-SE方向を示している。

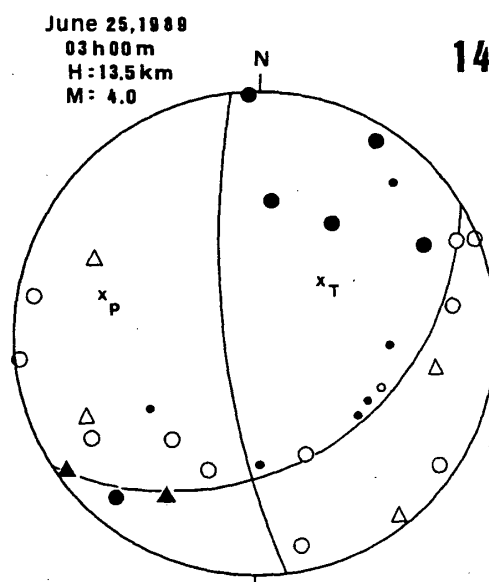
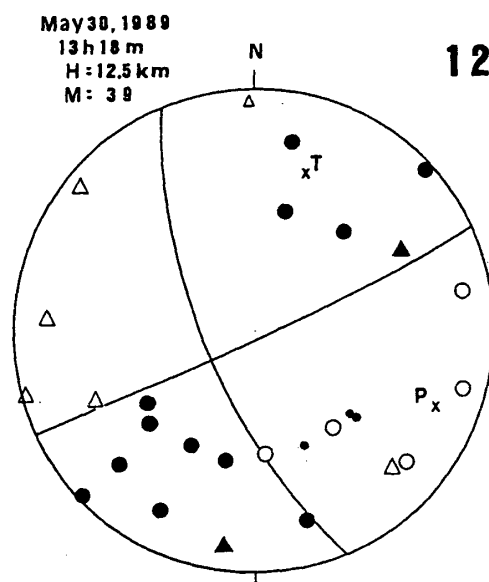
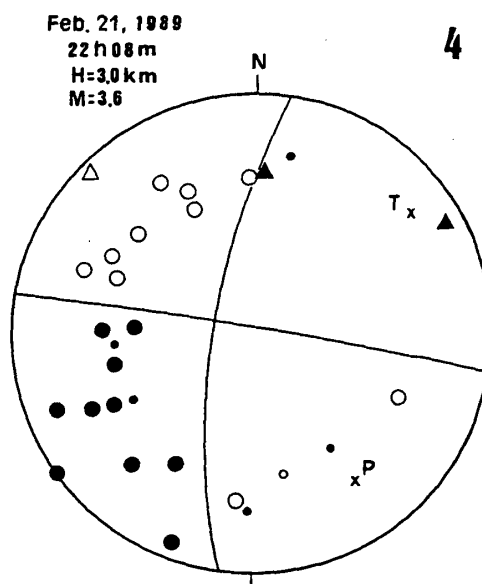
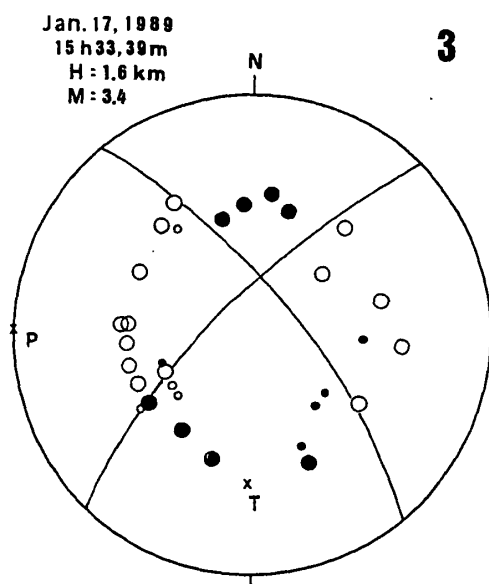
参 考 文 献

- 1) 京都大学防災研究所上宝地殻変動観測所：中部地方北西部（飛騨地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の地震活動（1988年6月～12月），連絡会報，42（1989），304-308.



第1図 中部地方北西部（飛騨地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の地震活動
（1989年1月～6月）

Fig. 1 Seismicity in the Northwestern Chubu Region including the Northern Hida, Toyama Bay and Noto Peninsula Regions, during the period January – June, 1989.



第2図 主な地震のメカニズム

Fig. 2 Fault-plane solutions of four earthquakes in the Hida region.